

GREEN RADER

全農長野県本部情報
／グリーンレーダー

2023 VOL.534

11



© 松本山雅 FC

中期事業計画(令和4～6年度)実行具体策の進捗状況について 01～04

A-Reports

- ・松本山雅FCホームゲームで「全農長野デー」 05
- ・JA-SS アグリしののいSSにEV充電器が設置されました！ 06
- ・ナガノきのこ大祭2023 06
- ・県産巨峰果汁が入った「午後の紅茶」リニューアル発売 07
- ・～大切な人へ新米を贈りませんか～ 長野米消費拡大キャンペーン
「長野県の新米を全国に贈ろうキャンペーン」開催中 07
- ・中信地区の花き、野菜、果実をPR
～スノーピークグランドステーション白馬でイベント～ 08
- ・スピードスケートの山田梨央選手とスポンサー契約 08
- ・新採用職員紹介 09

A-Board

- ・～今年も美味しくできました～
長野県産新米キャンペーン開催中 09
- ・JA全農長野の事業現況 10
- ・今月のおすすめレシピ 10
- ・11月のラジオ番組表 10
- ・編集後記 10



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

中期事業計画（令和4～6年度） 実行具体策の進捗状況について

全農長野県本部は、中期事業計画の実践によりＪＡ支援に取り組むとともに、ＪＡおよび子会社とともに農業所得の増大と地域の活性化に取り組んでいます。

I. 「中期事業計画における基本目標」 令和5年9月末時点での総括

その1 ▼ 持続的な農業生産基盤づくりによる農業生産量の維持拡大

- (1) マーケットニーズを踏まえ、地域実態・担い手ニーズに対応した生産提案と生産拡大に取り組むとともに、生産安定に向けた現地指導、栽培講習会を通じて営農指導支援体制の強化につとめました。
- (2) 気象変動に対応した生産安定化対策と災害回避対策として施設化を推進しました。また、労働力不足や生産性向上等課題解決に向けスマート農業・農業DX化の導入をすすめました。

その2 ▼ 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化

- (1) 重点卸売会社・実需者に向けた総合品目供給による本県の長期売り場の拡充、付加価値販売・商品の強化や独自色のあるeコマース事業の強化等により販売力強化に取り組みました。
- (2) 包材や肥料のコスト抑制、農機低価格モデル共同購入や県域推奨型式の重点購買に取り組むとともに、農業生産用燃料支援対策の実施により生産コストの圧縮をはかりました。

その3 ▼ J A 経済事業の収支改善と活気ある地域社会づくり

- (1) 燃料次期事業体制への移行準備をすすめるとともに、系統集集による石油取扱数量の確保やSS競争力の強化、新たな県域農機整備拠点の設置による系統整備体制強化に取り組みました。
- (2) 石油・LPGガス・ホームエネルギー・宅配事業の収支改善と体制強化による地域ライフライン維持を通じて組合員満足度を高め、活気ある地域社会づくりに取り組みました。

II. 「中期事業計画における取り組みの特記事項」 令和5年9月末時点での総括

その1 ▼ 担い手推進センターの取り組み

- (1) 生産振興提案・購買事業の利用拡大・系統集荷量の拡大を目的に、ＪＡと連携し地域の担い手への推進を行い、担い手のニーズや課題の把握を行いました。
- (2) 担い手からの要望や課題に対しては、各事業所と本所3部門で共有、協議するとともに、解決案等の具体的提案を行いました。
- (3) 9月末での担い手訪問回数の累計は101回で、訪問した担い手件数は58件となっています。

その2 ▼ 農業生産管理支援システムの進捗状況

- (1) 全体進捗
関係部署を召集のうえ開発進捗会議を行い、県本部方針やシステム別の開発概要・スケジュール等について共有・協議を行いました。また、ＪＡ長野中央会・（株）長野県協同電算と連携し、各ＪＡの企画・営農部門との協議に基づき、システム開発をすすめました。
- (2) 各システムの進捗状況

情報発信システム	全ＪＡにて稼働しました。今後は閲覧記録管理機能を追加し、更なる利用率の向上および質の高い情報の発信を目指します。
圃場カルテシステム	圃場台帳・生育診断の2つの機能が運用を開始しました。下期はカルテ機能の構築をすすめます。
青果物販売管理システム	予約集計・出荷報告に関わる概要設計を行うとともに卸売会社説明を開催しました。引き続き集出荷や輸送管理を含めた稼働準備をすすめます。
土壌診断システム	1ＪＡにて試験運用を開始し、診断結果のデータ配信を実施しました。
米穀出荷管理システム	2ＪＡにて試験運用となり、5年産米出荷契約の生産者によるweb入力を実施しました。

Ⅲ. 各事業別 令和5年9月末進捗状況

【生産振興部】

実行具体策	5年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 産地基盤維持に向けた生産振興の推進			
(1) マーケットニーズ、担い手ニーズに応じた3部連携による生産・販売支援	推進・拡大	担い手への施設化や栽培技術の提案	果菜類等の栽培技術提案や品種試験による実証圃の設置をすすめた。
(2) リング高密植栽培の普及拡大	490ha	現地指導の実施	生産安定に向けた現地指導を実施した。引き続き、栽培講習会等を開催し、課題解決に向けた技術指導を実施する。推進の基礎資料のため本年のJA別面積等の調査・集約を行う。
(3) JA生産法人と連携した実証圃設置や作業受託等地域振興への取り組み	3法人	ピーマン実証圃(2法人) アスパラガス実証圃(1法人)	簡易施設栽培、品種試験や新たな栽培技術の実証試験を行っている。実証結果を踏まえ、普及拡大に向けた提案を行う。
2. 気象変動に対応した生産安定化対策と災害忌避対策の推進			
(1) リング高密植栽培のトレリス強化対策推進と多目的ネットの普及拡大	ネット5ha 現地検討4カ所	現地指導の実施 多目的ネット5ha導入(概算)	ハイブリッドトレリス普及のための設置コスト低減策として外国製コンフリート支柱の検討をすすめる。
(2) 生産安定に向けた野菜の施設化推進	県下4事例 現地検討実施	アスパラガス(1事例) ピーマン(3事例)	アスパラガスおよびピーマンのモデル圃場の設置を行い、実証結果を活用した普及推進をすすめる。
(3) 専用農機を活用した排水対策の実施	レンタル8JA	デモによる実演3JA	平高畝成型機「ベッドマイスター」による「平高畝栽培」モデル圃場設置し、生育調査等を実施。
3. スマート農業、農業DX化の促進			
(1) 農業生産管理支援プラットフォームの開発・導入と機能拡充	運用拡大・機能拡充 情報配信全JA	情報発信システム稼働。圃場カルテシステム(アスパラガス)の稼働に向けた試験運用を開始。	営農指導や資材関連等の情報をJAに発信を開始。
4. 県本部種苗供給体制の強化			
(1) 野菜種苗センターの優良苗供給拡大	185万本	97・5万本供給	良品質苗の安定生産を継続し、次期作に向けての推進を行う。
(2) リングフェザー苗の生産供給拡大(生産振興部生産本数)	5.8万本	定植・生育	歩留まり向上のための生育管理を継続する。

【生産販売部】

実行具体策	5年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 生産者手取り最大化に向けた販売力の強化			
(1) 重点卸売会社、重点実需者に向けたJAと品目を横断した本県長期売場拡充	重点卸売会社取扱高77%	重点卸売会社取扱高73%	継続的な商談と売り場確保、先のみえる商売を拡大する。
(2) 業務・加工、輸出需要に対する多様な販売・流通手法による取り組み強化	①新規5件 ②輸出額9億円	①新規2件 ②輸出9億円	①野菜…2件(CVS向け) ②モモは生産減および中秋節に合わせ出荷減
2. 系統集荷販売力および収益力の向上			
(1) 系統未利用・低利用の生産者等に向けたJAと連携した生産・販売提案	販売・購買事業の利用提案	リング苗供給先新規訪問10件、アスパラ3万本新植	継続的なアフター対応を行う
(2) コンセプトを明確にした青果物付加価値販売・商品の強化	付加価値販売開発5件	新規販売先2件	果実コンポート2件(商談中)
3. デジタル技術活用による事業効率化			
(1) JA業務と連動する販売・購買システム構築による情報活用	システム開発と運用開始	予約注文入力機能、生産者出荷報告機能の概要設計	予約・出荷報告機能稼働にむけた作業集出荷・分荷、輸送連携機能の要件定義
4. 効率的かつ安定的な輸送体制の確立			
(1) 継続できる安定輸送体制の実現	拠点会社等の機能を活用した輸送の取り組み	パレット運用スキーム構築、ストックポイント調査・情報提供	国のガイドラインを遵守した枠組み作りJA・輸送会社と連携し、出荷までの対応・荷受先の課題整理
5. JA・県本部一体となった長野市集荷推進の実施と販売力強化			
(1) 長野市集荷および実需者販売の強化	73,500t	68,051t	概算金の引き上げ、JAと一体となった実需者営業

【生産購買部】

実行具体策

5年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 包材のコスト抑制・需要の結集

(1) 低コスト組箱の普及拡大	累計90万箱	累計32万箱	ぶどう段ボールおよびりんご3kg段ボールの低コスト組箱化を実施。今後、他JAへ拡大推進をはかる。
(2) 機能性の高い包材の導入・普及	累計15規格	累計8規格	ぶどう贈答用に美粧性の高い段ボールを導入。今後、白菜段ボールに野線割れ防止機能を付加したアイテムの導入を推進する。

2. 低コスト・省力資材の開発、普及

(1) 軽量肥料(15kg袋)の開発・普及	800t	305t	新規に7銘柄の採用決定。今後供給を行う銘柄について準備をすすめる。
(2) BB指定混合肥料の普及拡大	累計3銘柄	1銘柄製品化済 2銘柄試験中	試験結果を検証し、製品化の可否を決定する。

3. 担い手への提案型推進

(1) わたしの肥料受注推進	5,000t	4,840t	受注・製造・物流の効率化をすすめる。
(2) 担い手直送規格農薬の普及拡大	5,800ha	5,759ha	水稻剤の新規取扱品目拡大で増加、園芸除草剤で受注減。実績拡大に向けた推進の継続。

4. システム構築・連携による業務効率化

(1) データ連携取引先拡大によるバーコード受入力比率の向上	70%	64%	関係取引先と協議をすすめる。
(2) 戸配送管理システムの肥料農薬データ連動	二次開発検討	検討中	開発元と連動課題の洗い出しと対応策の検討をすすめる。

5. 県域農機整備事業の体制強化

(1) 県域農機整備拠点による系統整備体制強化	丸子360台 堀金200台	丸子233台 堀金124台	北信地区からの受入増加 中南信地区の受注堅調
-------------------------	------------------	------------------	---------------------------

6. 農機コスト低減の取り組み

(1) 県域推奨型式設定による重点購買	累計11型式	アンケートの実施(10月)	11月に推奨委員会開催予定
(2) 中古農業機械の流通促進	サイト成約40台	サイト成約10台	サイト掲載時に掲載情報の登録農機への一斉送信を10月より実施する

【畜産酪農部】

実行具体策

5年度計画

進捗状況

達成度合いと今後のすめ方

1. 生産基盤の維持確保

(1) 肉牛(枝肉)の出荷頭数確保	6,750頭	3,227頭	JA・関連会社・販社と連携し、補完的生産事業による頭数維持、有利販売をはかる。
(2) 肉豚(枝肉)の出荷頭数確保	59,000頭	27,823頭	夏の猛暑による出荷頭数影響あり。JA・関連会社・販社と連携し、夏以降の出荷頭数確保をはかる。
(3) 生乳の出荷量確保	85,000t	40,714t	酪農家戸数の減少、減産政策、猛暑による乳量低下の影響あり。県本部生産基盤対策事業の活用による基盤維持をすすめる。

2. 信州産ブランドの強化

(1) 信州プレミアム牛肉の生産販売	2,600頭	1,110頭	新たな輸出先を含めた有利販売につとめ、ブランドの認知度を更に高める。
(2) 銘柄豚の特色ある販売方式の維持	10銘柄継続	10銘柄継続	お客様・販売先に支持される特色ある銘柄豚の継続に向けた協議をすすめる。
(3) 生乳のポジティブリスト制度に係る全戸巡回	230戸	211戸	12月末までに全戸巡回を実施する。

3. 県本部生産農場の機能発揮

(1) 素子豚の安定供給	22,500頭	9,949頭	下期肥育事業強化および県内外への販路拡大による生産基盤維持をはかる。
--------------	---------	--------	------------------------------------

(2) 預託牛の受入頭数拡大	390頭	酪農家の作業軽減・支援に向けた受入頭数確保をはかる。
(3) 生乳の出荷量確保	1,700t	搾乳頭数の増加および飼養管理の徹底により順調に推移。

4. 畜産酪農営農センターの機能強化

(1) 県本部生産農場での実習その他研修	3回/年	2回	ハケ岳牧場および三岳牧場での若手後継者育成も含めた継続実施する。
----------------------	------	----	----------------------------------

5. 食肉処理施設の方向付け

(1) 長野県食肉施設検討会の協議	県の検討会での協議	随時	最終移転候補と事業スキームを最優先に検討をすすめる。
-------------------	-----------	----	----------------------------

【生活部】

実行具体策	5年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
-------	-------	------	--------------

1. SS協同経営方式の拡充による体制強化

(1) J A合意形成と段階的な事業方式の移行	地域ライフラインSS、協同経営加盟SS決定と加盟準備	J AとのライフラインSS加盟協議完了	ライフラインSSの協同経営加盟協議を協同経営6 J Aと実施。令和6年4月加盟SSを11月に組織決定する。
-------------------------	----------------------------	---------------------	---

2. 石油取扱数量の確保

(1) 系統結集数量を背景にした仕入強化	290,800kℓ (協経含む)	107,934kℓ	県統一の特別対策実施等により系統結集をはかるとともに、EnkeyやSSアプリ会員獲得による顧客固定化に取り組んだ。10月から灯油対策を実施。
(2) キャッシュレス・Web化対応による顧客固定化			

3. SS協同経営販売数量の確保

(1) SS独自キャンペーンによる来店促進	66,000kℓ	30,696kℓ	7月サマーキャンペーン、LINEによる販促企画およびSS独自企画を実施。A・コープ事業連携は4 J A 15 SSで秋と冬に実施する。
-----------------------	----------	----------	---

4. ガス取扱数量の確保

(1) J A別マスタープラン実践による小売事業強化	17,100t	6,454t	14 J Aでマスタープラン検討会を開催し、行動計画進捗管理を実施。顧客接点強化のためベシックスサービスの実施中。下期はオール電化顧客への燃転・ガス器具販売に取り組む。
(2) 顧客防衛に向けた体制整備と接点強化			

5. ホームエネルギー推進体制の確立

(1) J Aでんき取扱いの拡大	低圧供給 累計4,500戸	低圧供給 累計1,921戸	J Aでんき取扱9 J Aで展開し、3 J Aがセット割引を実施。セット割引導入 J Aの増加と組合員推進で契約戸数拡大をはかる。
(2) 灯油・LPガス・電気のセット割引導入			

6. 自動車取扱台数の確保

(1) 営農車の台数確保と電動車の取扱拡大	2,750台	1,091台	J Aサンバーを中心に営農車のPR販促を実施。J A祭等での展示会実施とわくわくドキドキモーターキャンペーンを中心に台数拡大をはかる。
-----------------------	--------	--------	---

7. eコマース事業の拡大

(1) 取扱商品の拡充と J Aと連携したPR強化による「らく J A ンお届け便」登録会員の拡大	800商品 2,200会員	620商品 1,944会員	会員増加にむけて各種イベントにて加入促進とPRを実施中。下期は県産青果物の取扱拡大と共同購入品目のバナー企画を展開する。
---	------------------	------------------	--

松本山雅FCホームゲームで「全農長野デー」

ＪＡ全農長野は９月２４日（日）、松本山雅ＦＣのホームゲームでスポンサーデー「ＪＡ全農長野デー」を開催しました（Ⅱ表紙）。県産農畜産物のＰＲや事業を紹介するブースを出展し、サッカークリニックを行いました。

全農長野運営委員会の神農佳人会長が「全農長野はこれからもサポーターの皆様とともに地元信州の農業と地域の誇りである松本山雅を応援して参ります」と挨拶すると、サポーターから大きな拍手が湧きました。



信州ポークの焼肉丼定食

「定食屋 全農長野」ブースでは、松本山雅ＦＣの試合会場で全農長野として４年ぶりの試食「信州ポークの焼肉丼定食」を５００名に振る舞いました。豚肉、米、焼き野菜のキャベツとズッキーニ、きのこのスープカリー、デザート、インマスカット、全てが長



フォトスポット



フォトスポット

県産食材であることをアピールし、クイズ付きの整理券は３０分で配布が終了しました。県産農畜産物やキャラクターと写真撮影ができる「フォトスポット」では、アルストロメリア・カーネーション・トルコギキョウなどの県産花きでクラブのスローガン「One Sou」を飾ったスポットで、キャラクターのぬいぐるみやリングなどを持って撮影するサポーターが多くいました。通販サイト「らくＪＡんお届け」のＰＲブースでは、その場で会員登録をしたお客様にたちもちミ



らくＪＡんお届け便 ＰＲ ブース

ルクパンをプレゼントし、１００名以上のお客様に登録していただきました。

この他にも昨シーズン選手を引退した松本山雅ＦＣエグゼクティブアドバイザーの田中隼磨さんによる小学生のサッカークリニック、ハーftimeにＭＶＰ賞の副賞として提供している信州プレミアム牛肉の生ＣＭ、県産カーネーションを持ったエスコートキッズの入場、１０月１０日より新発売される県産巨峰果汁が入った「キリン」午後の

紅茶 季節のご褒美 FRUITS TEA グレープ」の試飲、県産農畜産物が５０名に当たる抽選会など、盛りだくさんの内容でした。

全農長野は、松本山雅ＦＣのスポンサー活動をおして多くの皆様の産地理解や全農長野をはじめとしたＪＡ長野県組織に関心を持っていただきたいと思います。



サッカークリニック

© 松本山雅 FC

J A I S S アグリしののいSSに EV充電器が設置されました！

グリーン長野 アグリしののいセルフSS敷地内に、県内J A I S Sでは初となるEV充電器が設置されました。

(株)ENEOSが進めている急速充電器「ENEOS Charge Plus」は、通常よりも早く充電が可能で、30分で約60%まで回復します(充電ランプ点灯時)。充電料金は、使った分だけお支払いいただくわかりやすい設定で、1分あたり49・5円(税込・非会員価格)です。お支払いは、各種クレジットのほか、Enekeyやnanacoをお使いいただけます。

実際に利用されたお客様は「チラシをみて近所に新しくEV充電器ができたので来てみた。家の充電設備は時間がかかるが、急速充電器は時間がないときに便利。Enekeyを使えるのはうれしい」と笑顔で話していました。



アグリしののいセルフSS

住所／長野市篠ノ井布施五明3236

電話番号／026-293-5660

営業時間／7:00～22:00

定休日／1月1日

※EV充電器をお使いいただける時間は、営業時間内です

ナガノきのこ大祭2023

きのこの魅力を知って楽しめるイベント「ナガノきのこ大祭2023」が10月1日に千曲市信州の幸あんずホールで開催されました。今年は「見る！食べる！愛でる！+知る！」をテーマに、きのこ生産・販売・流通などの会社・団体が実行委員となって「きのこクラフトマーケット」「きのこ汁ふるまい」「きのこ美味いマーケット」「山のきのこ鑑定」など、きのこ関連の様々なブースが出展されました。

J A 全農長野野菜きのこ課は「きのこ鍋セットの袋にきのこを詰める来場者



きのこ鍋セットの袋にきのこを詰める来場者

のこ鍋セット詰め放題」を行い、きのこ、白菜、きのこスープの素などを提供しました。来場者は半分にカットした白菜が入った規定の袋を受け取ると、きのこをつぶさないように、できるだけたくさん詰めようと工夫していました。大行列ができた中、来場者は「涼しくなってきたからさつそくお鍋にします」と喜んで持ち帰りました。

また、きのこ産業の未来について語るパネルディスカッションもあり、聴講者は流通の課題などを学びました。



たくさんのきのこを持ち笑顔の来場者

県産巨峰果汁が入った 「午後の紅茶」リニューアル発売

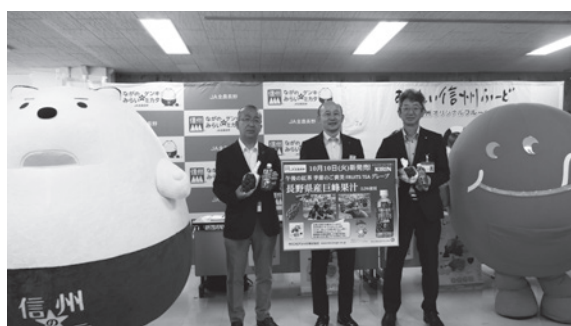
キリンビバレッジ(株)より「キリン 午後の紅茶 季節のご褒美 FRUITS TEA グレープ」が10月10日に発売されました。昨年、限定発売した同商品が好評のため、今年は更に手を加え、果汁と紅茶のバランスを調整しての発売です。

10月5日(木)に長野県庁で開いた記者会見に、キリンビバレッジ東日本統括本部の谷川浩二統括本部長、長野県的小林茂樹農政部長、JA全農長野の小林強果実花き課長が出席し、それぞれの立場からPRしました。



谷川統括本部長は「昨年、1週間で予定数を売り切り大変好評でした。今年は中身・パッケージともブラッシュアップし、初回数をかなり増やして販売します」と話しました。小林農政部長は「県

産の魅力を改めて知り、県産を意識して購入するきっかけにしたい」と期待しました。開発に携わったキリンビバレッジ商品開発研究所の赤沢みなみさんは「長野県産の巨峰は、深い甘さ、うまみ、ジューシーさがあり、紅茶との相性がよく、紅茶に奥行きを与えてくれます」と長野県産を使った理由を説明。小林果実花き課長は「長野県産巨峰は、甘さが強いと評価されています。気候風土はもとより生産者の努力によってしっかりとした味が保たれています」と話しました。



同商品は、60万ケース(24本/ケース)の数量限定で全国のスーパー・コンビニエンスストアなどで販売中です。

大切な人へ新米を贈りませんか

長野米消費拡大キャンペーン 「長野県の新米を全国に贈ろうキャンペーン」開催中

長野県A・コープ29店舗では、長野米の消費拡大を目的に「長野県の新米を全国に贈ろうキャンペーン」を開催中です。(株)長野県A・コープ、JA全農長野、マイパル長野の共同企画で、今回が初めての取り組みです。

このキャンペーンは、「長野県産コシヒカリセレクト」と県オリジナル品種「風さやか」の食べ比べセットをはじめとした長野県のおいしい新米を、県外に暮らす大切な方に贈ることができる企画です。10月1日(日)から11月30日(木)の期間中、A・コープ各店舗のサービスカウンターで申し込みを受け付けています。

新米の食べ比べセットで、様々なお米のおいしさが味わえます。長野県から心を込めて、県外のご家族、ご親戚、ご友人に新米を贈り、元氣と笑顔を届けましょう。

キャンペーンの詳細は、長野県A・コープホームページまたはお近くの店舗のサービスカウンターへお問い合わせください。



中信地区の花き、野菜、果実をPR 「スノーピークランドステーション白馬でイベント」

全農中信事業所・JA園芸事業推進協議会は10月7日(土)、スノーピークランドステーション白馬で、中信地区の花き、野菜、果実のPRイベントを実施しました。

販売は行わず試食宣伝に特化し、JA大北産のリンゴ「シナノピッコロ」「シナノスイート」、JA木曽産のハクサイ、松本洋菜部会・JA信州諏訪産のセルリーを使用した「簡単サラダ」の振る舞いのほか、JA松本ハイランド産のカーネーションを使った「花すくい」と「野菜の重さ当てクイズ」を行いました。

県内外はもちろん海外からのお客様も多く、試食は「苦手になっていたセルリーがこんなに甘くておいしいとは!」「簡単サラダの名前のおり、簡単でこんなにおいしいならたくさん食べられる」と喜ばれました。花すくいはお子さんから大人まで100名ほどが挑戦



カーネーションを使った「花すくい」

し「こんな楽しみがあったなんて!」と大変喜ばれました。野菜の重さ当てクイズは「日頃、売り場で見ているものと違って新鮮に見える」と驚くお客様が多くいらっしゃいました。



野菜の重さ当てクイズ

お客様に喜んでいただけた。週末マルシェだけでなく宿泊イベントなどを通じて長野県産の農産物を一緒にPRしていけたら」と前向きな所感をいただきました。

また、10月14日と15日に開催された(株)スノーピーク主催の「LOCAL FOOD TOURISM in HAKUBA」では、参加者にプレゼントされるギフトボックスにJA松本ハイランド産「りんご三兄弟」を提供しました。参加者の皆さんは、実りの秋にこの地で試食した農産物の味が思い出の一つになり、日常の買い物で長野県産を選んでいたくださりかけになったと思います。



LOCAL FOOD TOURISM in HAKUBAのギフトボックスに提供したりんご三兄弟

スピードスケートの山田梨央選手とスポンサー契約

JA全農長野は、直営商事(株)所属で諏訪市出身の山田梨央選手とスポンサー契約を結びました。

山田選手は、2022年の全日本選抜スピードスケート競技会 帯広大会、恵那大会のいずれも500m1位、1000m1位など、国内トップクラスの選手です。10月20日(金)から22日(日)に長野市のエムウエーブで開催された第30回全日本スピードスケート距離別選手権大会では、



選手権大会では、500m・1000mとも3位となり、ワールドカップ派遣記録を突破しました。

全農長野は山田選手に長野県産農畜産物を提供し、食をとおして応援して参ります。

新採用職員紹介

令和5年度の新採用職員を順次ご紹介します

東京販売事務所

とみおか ま ゆ
富岡 真由



“ 研修で同期に会えることが嬉しい!! ”

はじめまして、東京販売事務所の富岡真由と申します。
生まれは松本市ですが、育ちはほとんど長野市です。
祖父母が農家で幼少期から農業とは縁があり、このような形で農業に携わっていることに幸せを感じています。
休日はワークショップに参加してダンスをしたり、ライブに参戦したりと東京ならではの体験を満喫しています。
まだまだわからないことや不安はありますが、失敗を恐れずに日々の業務に取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

大阪販売事務所

つる た しん ご
鶴田 真吾



“ 関西へ長野県の魅力を発信します! ”

はじめまして、大阪販売事務所 果実担当の鶴田真吾です。
幼少期からリンゴ農家の祖父母を手伝いながら生活し、農業高校、農業系の大学に進学するなど、農業には深く関わってきました。入会してあっという間に半年以上が経ち、全国各地から集まる果物と関西のにぎやかな雰囲気に包まれながら日々生活しています。
休日は学生時代から続けているバスケットボールをしたり、関西の美味しい食べ物巡り、旅行等をして過ごしています。
長野県農業に少しでも貢献できるよう、農業経験を活かして精一杯頑張ります!

>>> A-Board

米穀課からのお知らせ

今年も美味しくできました

長野県産新米キャンペーン開催中

JA全農長野米穀課では、「長野県産新米キャンペーン」を開催中です。

対象商品のパッケージに貼付されているキャンペーンシール(50万枚限定)を2枚集めてシリアルナンバーを入力すると、抽選で100名様に10,000円分のお米券※が当たります。さらにWチャンスとして外れた方の中から200名様ににおにぎりランチケースをプレゼント!

ご応募は12月31日(日)まで(はがきの場合は当日消印有効)

皆さまのご応募をお待ちしております。

※8,800円分のお米と引き換えいただけます



JA全農長野の事業現況▶

令和5年度9月末部門別実績表

(単位：百万円、%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
生産振興課		0	0	0
野菜種苗センター		106	88	97
生産振興部計		106	88	84
米	穀	7,003	89	103
果実花き		22,992	100	100
野菜きのこ		46,681	87	105
営業		8,210	86	105
生産販売部計		84,886	91	104
包装資材		4,844	105	109
生産資材		4,608	96	87
農業機械		3,401	97	99
施設住宅		5,518	128	175
生産購買部計		18,372	106	113
畜産酪農		16,268	102	101
三岳牧場		142	111	103
SPF繁殖センター		139	90	91
八ヶ岳牧場		140	107	136
畜産酪農部計		16,689	102	101
燃料・ホームエネルギー		11,992	102	98
SS協同経営		3,909	115	104
生活		4,551	107	102
生活部計		20,452	105	100
長野県本部計		140,505	96	104

(内部販売高含む)

11月のラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
11/22(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	果実花き課

グリーンレーダー
X(旧ツイッター)はこちら▶



今月のおすすめレシピ

秋野菜とベーコンの ペペロン炒め



■材料(2人分)

- ・白菜(またはキャベツ)..... 200g
- ・お好みのきのこ(えのきたけ、ぶなしめじ、エリンギなど)
..... 100g
- ・ズッキーニ..... 50g
- ・セルリー..... 50g
- ・厚切りベーコン..... 50g
- ・オリーブ油..... 大さじ2
- ・唐辛子..... 1本
- ・にんにく..... 1片
- ・コンソメの素(顆粒)..... 大さじ1
- ・塩・黒こしょう...各少々

- ①白菜は葉と軸に分けて、長さ6~7cm×2cm幅の棒状に切る。ズッキーニ、セルリーも1cm幅の棒状に切る。
- ②きのこは小房に分け、ベーコンは5mm幅の拍子木切り、にんにくは薄切りにする。唐辛子は輪切りにする。
- ③フライパンにオリーブ油、唐辛子、にんにく、ベーコンを入れて弱火で熱し、香りが出たら白菜、きのこ、ズッキーニ、セルリーをしんなりするまで炒め、コンソメの素、塩・黒こしょうで調味する。

グリーンレーダー
WEB版はこちら▶



編集後記

秋彼岸を境に朝晩の気温が下がり、ひと雨ごとに秋も深まってまいりました。農産物も実りの秋となり、県下各JA・各支所では、10月から11月下旬にかけてJA祭(農協祭)・収穫祭が開催されます。

私は「農協祭」と聞くと「ワクワク」が止まりません。

子供の頃(昭和50年代)、地元の農協祭は家族揃って出かける一大イベントでした。農協構内いっぱいに立てられたテント、事務所や倉庫は紅白幕が張られ、農産物品評会、生活部会などの活動展(発表会)、お楽しみ抽選会、宝投げ、越冬野菜市、おにぎりや豚汁の振る舞い、餅つき大会、資材農機具・電気家具・衣料品・自動車などの展示販売、はたまた歌謡ショーまであつたりしてとても賑やかで、子供心に「まるで田舎に忽然と現れたサカスカミ」と感じていたと思います。大人になり経済連に就職した当初は、農協祭電化ショーの応援に行き、当時最新鋭の「液晶ビューカム」を売っていました。今の若い職員には「電化ショー」なんて想像すらつかないでしょう。

平成中頃までに県内に大型スーパー、量販店が次々と出店し、新幹線、高速道路開通により地域組合員のライフスタイルが大きく変わりました。また農協合併もあり、農協祭の規模や中身も大きく変わっていくこととなり、今日の「JAと地域」「食と農」を通じたイベントや交流を目的としたJA祭・JAフェスティバルとなりました。時代は変われど、JA祭りに、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に親子連れが来場される姿を見ると「ほっこり」します。(一)

ごっつあんです

信州の 農畜産物



JA全農長野は、長野県の農畜産物をととして御嶽海関を応援しています

グリーンリーダー11月号（毎月発行） 2023年10月20日発行 第534号
発行／JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 発行人／高田武司 印刷／PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

